

北
海

校友だより

第50号

2009年2月26日

北海校校友会事務局

札幌市豊平区旭町4丁目1の41

北海高校内 TEL841-1161

編集責任者 長谷川 純 一

編集者 門 屋 義 行

〈ご挨拶〉

会長の就任にあたって

北海校校友会会長(高校7期) 福屋脩 三



昨年5月の校友会総会に於いて、会長に就任致しました高校7期の福屋脩三であります。

至らぬ者ですが北海高校並びに北海校校友会の発展のために、精一杯の努力を致して参りますので校友の皆様のご協力ご支援を宜しくお願い申し上げます。

北海高校は創立124年の歴史と伝統のある事に、多くの校友の皆様が社会に出られて輝かしい業績を残しご活躍されている事に、改めて敬意を表したいと存じます。

一昨年米国のサブプライム

ローン問題に端を発した金融、経済危機が、世界同時不況の様相となり、米国の大手投資銀行や大手の証券会社の破綻、国際通貨のドルやユーロに対して急速な円高による日本の輸出関連産業も大きな打撃を受け、自動車や電化製品など軒並み業績悪化となり、前年度営業利益が2兆円超を出した世界の大企業も今期の営業損失は3、500億円もの赤字見通しなど、国内関連産業に取っても、戦後最大級の景気後退の重大局面に遭遇し、次第に中小企業や一般市民の生活にも影響が始めており、出来るだけ早くこの難局を克服する努力が求められております。

これから学校を卒業し大学へ進学する生徒、或いは就職をされる生徒たち、いづれにしても卒業後社会へ出なければ成らない人達が、余り迷う事のない就職活動が出来る環境に成る事を、心から願っております。

昨年の母校北海高校は9年振り、34回目の夏の甲子園大会へ駒を進め、高校野球屈指の速球投手のエース鍵谷君は試合当日146キロの速球を記録するなど、評判どりの速球を投げたが真中に集まり無念の敗退となったが、打撃陣では5分の戦いを10得点を奪う猛攻を見せその闘争心は名門北海高校の片鱗を伺わせ、立派であったと評価したいと思います。

12月にはサッカー部が今年度各級大会で道内無敗の成績で、全国選手権大会出場を決め正月大会では大いに盛り上がりを見せましたが、無念にも惜敗を致しました。

その他、運動部、文化部共にその実力を発揮し、全国大会への出場を果たし文武両道の成果を収めている事を、校友の1人として誇らしく思います。

これらの全国大会出場には校友の皆様にも多大なご寄付を賜り、改めて心から有難く厚くお礼を申し上げます。

又、寄付集めにご足労を頂いた校友の皆様にも心から感謝を致したく存じます。

今年も校友の皆様には種々お世話になる事と存じますが、宜しくお願い申し上げます。

私どもは今後は「質実剛健、百折不撓」の精神を忘れる事なく、今日の多難な難局を乗り切って行ける事を願い、互いに切磋琢磨して多にお活躍される事を心からお祈り申し上げます、会長就任のご挨拶とさせていただきます。

校友会長

退任の御挨拶

北海校友会第7代会長

(北中41期)

倭 昭 三



この度の会長交代にあたり
在任中の学校当局並びに校友
各位の御協力・御支援に対し
まして、心より感謝し御礼を
申し上げます。

会長になって4年余、月日
のたつのは本当に早いもので
す。

「人生早いぞ、さつさと終
わるぞ」という父の言葉が生
きた言葉として身近に聞こえ
るようになりました。それは
私が中学に入りたての頃から
折りにふれて聞かされていた
ものです。父は徳島商業学校
(現徳島商業高校)を卒業後、
大阪市内で商売の手ほどきを
受け、単身札幌へ出てきて海

産物の商店に住み込み店員と
して勤務しました。その後何
とか一本立ちし、間口二間ほ
どの店を借りて小売店の開業
に漕ぎつけ、今日の発展の基
礎作りを果たしました。無一
文から店を起こした父の得た

ものは単純明快に「時間の早
さ、大切さ」であつたと思わ
れます。
そのことを肝に銘じつつ、
会長職に誠心誠意つとめて参
りましたが、どれほどのこと
が果たせたか自信はありません

ん。しかし在任の四年余は、
北海英語学校に始まり、北海
中学・北海高校と発展してき
た124年の歴史の重さと偉
大さを改めて感じる日々でし
た。生徒として、そして校友
会長として、母校の124年
の歴史に直接加わることがで
きましたことはこの上ない幸
せでもあります。重ねて皆様
に御礼申し上げる次第です。

中卒者は半減し、この先10年
でさらに15パーセント減少し
ます。恐ろしい現実です。き
つと持ちこたえられなくなる
私学が出てくるでしょう。幸
いに北海は定員を超える生徒
が来てくれているので、「文
武」に活気ある高校生活を作
り出すことができているので
す。

もうひとつは公立私立間の
学費の格差です。私立は公立
のほぼ4倍の学費がかかりま
す。北海高校に進学させたく
てもできない現実が一方には
あるのです。公費助成の増大
と独自の奨学金制度の充実が
必要です。

「文」と「武」にさらに磨
きをかけて、北海はいつまで
も生徒に選ばれる学校であり
続けたいと考えております。
今後とも校友の皆様の変われ
ぬ御支援とご協力をお願いす
る次第です。

「文」と「武」を磨く

校長 北 明 邦 雄



野球部の甲子園出場並びに
サッカー部の選手権大会出場
に際しましては、校友の皆様

から多大な御支援を賜りまし
た。心より感謝申し上げます。
どちらも初戦で敗退し校友の
皆様の御期待に十分応えるこ
とはできませんでしたが、選
手たちは北海スピリッツを遣
憾なく発揮し健闘してくれた
と思っています。
昨年は運動部・文化部が近
年になく活躍した年でした。

これに「国公立大71本州私大
81学園大166名」(08春)
という進学実績を加えれば、
「文武両道」の名が少し近づ
いたかなと思うこともありま
した。
しかし、高校教育をとりま
く環境には極めて厳しいもの
があります。ひとつは少子化
です。平成に入つた20年間に



「校友の集い」のおでそい

「拳を右手に高く『北海健児』」

高29期 実行委員長 佐藤 昌史



伝統ある北海校校友会、実行委員長と言う大役を仰せつかり、来る5月を目の前に、身の引き締まる思いでいます。本年度は、我々高校29期が当番期として、「拳を右手に高く『北海健児』」をテーマにかかげ、校友の集いを催すべく準備の最中でございます。

私事ですが、昨年度夏、北海高野球部が全道大会優勝時円山球場3塁側応援席に駆け寄り、満面の笑みで右手拳を力強く何度も突き上げ体全体で歓喜する姿を目にした時、これぞ「北

海健児」と言う想いが、テーマの基本となっていました。

激動の世の中、これまでに誰もが経験した事のない変化が起つています。今こそ表面的な変化に躍らされる事なく物事の本質を見る眼が必要とされています。

この様な状況下に、北海校の卒業生である誇りを忘れる事なく「質実剛健・百折不撓」の精神で立ち向う心構えを再確認する機会であれば、又同窓生諸先輩より受け継がれている伝統・歴史を、次世代に伝承する足掛りとなれば幸いです。

最後になりますが、この集いに一人でも多くの皆様に越え頂き花を添えて頂ければと心よりお願い申し上げます。

新任紹介

数学科

本田真里子先生



私は、昨年まで公立高の教員でしたが、北海高校の

校風や基本精神が本当に好きで、赴任できる機会を心待ちにしておりました。願いがかない1年間、感動と感謝の気持ちで過ごして参りました。

毎日生徒の皆さんが、元気良くあいさつをかわしてくれたり、勉強や部活に真摯に励む姿を見て、心身ともに健やかに成長し、学問を学び、人として生きていくためのあるべき姿を考えさせられた1年でありました。来年は、どんな1年になるのか楽しみです。

保健体育科

長谷川 諭先生



北海高校46期生の長谷川です。高校時代を振り返る

保健体育科

斉藤 順道先生



幼い頃より、伝統ある北海高校で教師になりたいと

想い続け、縁あつて昨年の4月に憧れの北海高校にお世話になることとなりました。

3年間という短い期間の中で、生徒達が、母校を愛し、心も体も大きく成長してくれるよう、私も真剣に向き合っています。

英語科

三澤 佑介先生



この春より北海高校で働くことになり、この頃では職場の雰囲気にも慣れ、充実した毎日を送っています。しかしそれは4月当初に周りの方々が色々教えてくださったので、今でも感謝していますので、私自身も相手に対する配慮を常に心掛け北海高校の伝統を担っていきたいと思います。

事務 楠 文彦さん



昭和48年3月に本校を卒業後52年から北海学園北見

大学(現北海商科大学)に勤務し昨年4月に本校へ転勤になりました。毎日、高校生の元気な様子を見ながら仕事をしています。まだまだ高校での勤務経験は不足ですが、よろしく願っています。



野球部甲子園出場

2008年7月19日、札幌円山球場は全校生徒をはじめ球場へ足を運んでくださった多くの野球部OBの皆様、校

友の皆様、保護者の皆様、そして北海高校を応援して下さる観客の皆様の熱いご声援につつまれました。



投手・鍵谷が最後の打球を捕り、1塁に投げたボールを1塁手・庄司が捕球した瞬間、

9年ぶり34回目の夏の甲子園出場が決まりました。

マウンド上に歓喜の輪ができ、スタンドからの大歓声と投げ込まれた幾筋ものテープ。日本一すばらしい校歌を球場全体で歌っているかのような大合唱の中、54名のすばらしい選手たちに恵まれ、心強い応援に支えられた喜びを噛みしめておりました。

9年という月日は、北海道の高校野球を牽引し幾多の歴史と伝統を築いてこられた野球部OBの皆様や校友の皆様にとつて、もどかしい日々であったことと拝察いたします。この間には、平川監督・選手にとつて臥薪嘗胆の日々でもありました。

8月2日。甲子園球場に、主将・小林勇登を先頭に堂々と行進をする選手たちの姿がありました。晴れやかな表情で甲子園の土を踏みしめる姿は感動的でした。

8月6日。対戦相手も伝統校である西愛知代表・東邦高校。これぞ甲子園という暑さ

の中での試合でした。

鍵谷の投げた初球が右中間スタンドに消え、主導権を握られた試合でしたが、その後の鍵谷は猛暑の中、北海高校のエースらしく粘り強く投げ続けました。選手たちは臆することなく、4番・池田の本塁打をはじめ精一杯の反撃を続け、終盤の攻撃は逆転の期待を感じさせてくれる勢いがありました。最後まで北海健児としての誇りと「百折不撓」の精神で闘ってくれました。

試合終了後アルプススタンド前に立ち、多くの皆様が応援に駆けつけてくださったことに感激しました。

甲子園出場にあたり、野球部OB会をはじめ校友の皆様、保護者並びに関係各位には、物心両面からご支援をいただき心より感謝申し上げます。

また、甲子園でご声援をいただいた方々、テレビやラジオで応援していただいた方々、そして、大切な大会への参加を取りやめて応援してください。吹奏楽部の皆様に心より感謝申し上げます。再び甲子園に立てるよう今後も努力を重ねてまいります。ありがとうございます。

御 礼

第90回全国高校野球選手権大会出場にあたって、「野球部を甲子園へ送る会」が募金活動を行いました。校友の皆様をはじめ、野球部OB、PTA、父母、一般有志、在校生など多数の方々のご協力で、左記のような決算報告となりました。心からお礼申し上げます。今後ともよろしく願い申し上げます。

なお、残額の中から、前回と同様に本校の運動部奨学制度である「南部忠平記念奨学金」に400万円を寄贈しました。

《収 入》	
郵便振込分	11,962,000
奉加帳募金分	17,532,486
その他	6,671,380(祝勝会・社行会会費、高野連補助など)
合 計	36,165,866
《支 出》	
野球部遠征諸費	14,737,887
応援諸経費	6,123,015(生徒応援団、プラスバンド、応援用具等)
その他	7,373,128(祝勝会・社行会諸費、通信費・印刷・広告費等)
合 計	28,234,030

サッカー部全国大会出場



今年度、サッカー部は部員63名と例年より少ない人数でスタートしました。その中で選手達は、チーム目標をインターハイ・プリンスリーグ・選手権の3大会全道優勝と決めました。

チーム目標を達成するためには、何が必要なのか、そして何を実践していかなくてはならないのかについて、選手達は試行錯誤を繰り返しながら、少しずつではありますが、着実に成長していく様子がわかりました。その様子をみていて、いつも私を含めスタッフを感じていることは、選手1人1人が本心に、「サッカーが好き」なんだということです。このことは例年の選手達をみていても思うことです。特に試合に出場することのできなかった選手達の行動をみていて強く感じることで、全体練習終了後の長時間にわたるミーティングや自主練習など、何事にもひたむきに取り組むその姿勢に感心させられることがあります。

このようなことが、サッカー部の伝統なのかとも思いますが、島谷先生を中心に、その伝統を継承しつつ、新たな取り組みにも挑戦していくことの大切さを強く感じる1年だったと思います。

今年は結果としてインターハイと選手権大会で全国大会に出場することができました。選手達が挑戦者として、ひたむきに取り組んだ結果ですが私達が忘れてはならないことは、学校をはじめ、保護者やサッカー部OB諸氏を含めた校友の皆様が、様々な場面でご支援下さっているということです。このような方々のご支援があつて選手達はグラウンドで思いっきりプレーすることができるといことです。

私達は、今年度の経験を無駄にすることのないように、常に「感謝の心」を忘れず、新たな「挑戦者」として成長していきたいと決意しています。最後になりましたが、全国大会出場にあたり、校友の皆様方から温かいご支援を頂戴いたしましたこと、心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

校友の集いを 終えて—お礼—

高28期 青木 繁幸

創立123周年の幹事の大役を務めた高校28期卒の皆様、本当に1年御苦労様でした。一生に一度、一番忙しい年だったのではないだろうか。何度か何度も打ち合わせをし、仕事があつても途中で抜け出し(在校時の野球の応援のように)何とか当番幹事を務める事が出来ました。これも偏に、御協力をいただきました先輩諸氏並びに後輩の皆様の並々ならぬご尽力と、学校関係者の方々の御支援、御協力、御指導を頂き無事に大役を終える事が出来、感謝の気持ちでいっぱいです。又、この幹事を卒業以来一度も会っていない者同士が、一つの目標に向かって一丸となつて、達成出来た喜びが、北海健児として本当に嬉しかったのです。50歳を迎えた同期が、久々に会って幹事を務める、このシステムが本当に良い事だと思いました。これからも同窓の親交を深め、北海校の更なる発展に協力していきたいと思っています。

今年は、もともとと若い世代の方や女性達にも出席してもらい、卒業生全員で、これからの校友の集いを盛り上げてほしいと思います。

二〇〇八年度進路決定状況

(中間報告)

札幌医科大学医学部医学科に一浪生が合格!!

北海道高校進路指導部長

野田 郁夫



第61期(共学8期)生42

2名が卒業の時を迎えました。多様な進路希望を実現させるために、放課後講習や各種模擬試験に積極的に取り組むと共に、朝読書や朝講習などに取り組んできました。また、看護系希望者のための「ふれあい看護体験」にも多数が参加しました。現在、一般受験に向けて学校で自習している姿も多数見られます。1月16日現在の全体状況は次の通りです。

就職内定者は7名です。民間に4名が内定し、国家公務

員税務Ⅲ種を含む公務員試験に3名が5つ合格しました。

専門学校へは、39名が合格しています。最近の専門学校志望者数は、3年生のほぼ1割程度となっております。その希望者の中でも、医療・看護系や衛生分野への合格者が多く、今年の39名の内、17名は医療・看護、衛生系でした。短大合格者は、4名であります。短大希望者も近年は一ケタ台となっております。

3年生の9割は4年制以上の大学への進学を希望しています。国公立大学希望者も増加傾向にあり、センター型私大受験も含みますが、今年の大学入試センター試験出願者は、213名でした。1・2年生も、約半数が国公立大学でした。

AO入試や推薦入試等で、

北海道教育大学、札幌市立大学、公立はこだて未来大学、

鹿屋体育大学など国公立大学10名を含め、102名が4年制大学に合格を決めています。また、北海学園大学へ93名、北海商科大学へ8名の推薦生も決定しています。北海学園大学への併設校推薦は、107名の枠がありますが、工学部希望者が少なかったために、107名を推薦することとはできませんでした。なお、近年指定校推薦が増え、今年

は全国103の大学・短大、63の専門学校から指定校としての通知を受け取りました。2009年1月16日現在の合格状況は次の通りです。

【大学・短大】

北海道教育大学5、小樽商科大学2、札幌市立大学1、公立はこだて未来大学1、鹿

屋体育大学1、札幌大学6、札幌大谷大学1、札幌学院大学5、札幌国際大学2、天使大学2、藤女子大学7、北翔大学11、北星学園大学3、北海学園大学1部(公募制推薦)2、北海学園大学2部1、北海道医療大学7、北海道工業大学3、北海道情報大学4、北海道文教大学3、北海道薬科大学3、酪農学園大学2。

関西学院大学4、了徳寺大学1、駒沢女子大学1、亜細亜大学2、東洋大学2、青山学院大学1、帝京科学大学1、金沢星陵大学1、大妻女子大学1、天理大学1、駒澤大学1、立教大学2、仙台大学1、国士舘大学2、帝京大学2、立命館大学1、環太平洋大学1、神奈川大学1、明治大学1、拓殖大学1、中央大学1、成城大学1、専修大学1。

光塩学園女子短期大学1、北星学園、北海道武蔵女子短期大学2。

【専門学校】

札幌科学技術専門学校1、日本航空専門学校2、日本福祉リハビリテーション学院1、北海道医薬専門学校1、北海道ハイテクノロジー専門学校1、北海道医療大学歯学部附

属歯科衛生士専門学校1、北海道歯科衛生士専門学校1、北海道柔道整復専門学校1、札幌医学技術福祉専門学校1、光塩学園調理製菓専門学校3、札幌ベルエポック製菓調理専門学校1、札幌ビューティ・メイク専門学校1、札幌ベルエポック美容専門学校4、北海道美容専門学校1、札幌福祉専門学校1、大原医療福祉専門学校1、大原簿記情報専門学校1、札幌ビジネスアカデミー専門学校1、大原法律

公務員専門学校2、経専音楽放送芸術専門学校3、北海道体育大学校1、札幌マンガ・アニメ学院1、東京ビジュアルアーツ1、東京メディアアカデミー専門学校1、ひこみづのジュエリーカレッジ東京1、華調理師専門学校1、神奈川柔道整復専門学校1、日本外国語専門学校2、富山情報ビジネス専門学校1。

【就職】

国家公務員税務Ⅲ種北海道1、札幌市交通局1、札幌市職員1、北海道警察1、自衛隊1、北海道旅客鉄道株式会社1、株式会社サッポロライオン1、札幌ベニヤ株式会社1、株式会社アイワード1。

運動部の活動状況

運動部長 斎藤 文雄

本年度の運動部の活躍はめざましいものがある。全道大会に出場した部は野球部・サッカー部・柔道部・剣道部・男子バドミントン部・新体操部・陸上部・卓球部・空手部・ホッケー部・アイスホッケー部

予選を経て国民体育大会に出場した部・柔道部・新体操部・ホッケー部等が出場しました。

これも、部員達の頑張りとお顧問の先生方の努力と諸先輩方のお力があったればこそとかがえるものです。今後とも後輩のため、母校北海高等学校のため諸先輩のお力添えをよろしくお願い致します。

文化部の活動状況

文化部長 佐々木仁志

新聞局…今年度は局員が1年生3名のみという状況であったが、例年どおり154号から157号まで年間4号の『北海高校新聞』を発刊した。10月の全道新聞コンクールでは155を出品し、昨年受賞した総合賞(最優秀賞)は逃したものの優秀賞を受賞した。放送局…学校祭や体育祭などの学校行事や、朝放送、昼放送を担当。

吹奏楽部…今年度、甲子園球

美術部…第50回学生美術全道展では全道美術協会長賞に佐藤誠、北海道新聞社賞に村田愛莉、優秀賞に佐藤拓実、奨励賞に登石莉彩・杉澤玲奈が輝いた。

第20回有島青少年絵画展で、登石莉彩が二セコ町長賞、杉澤玲奈・村田愛莉・太田なづかが奨励賞を受賞した。2月に大丸藤井セントラルで第99回どんぐり展を開催。

写真部…今年度は大友、小森矢作、宮田、渡辺の5名が群馬総文に出場し、念願の全国入賞(3位)を果たした。また、石狩支部で2位、15名の部員全員が全道に進出し2位、全道コンクールでは最優秀を獲得し、志々見、百川の2名が来年度の全国(三重)大会の切符を手にした。

コンピュータ部…毎週月曜日から金曜日まで、コンピュータ実習室及び文化棟の部室において活動している。放課後、部員はインターネットの他様々な目的で楽しく活動している。なお、顧問の由岡芳隆先生は今年度限りで退職され、新年度からは、岡部征和先生が新たに顧問に着任する。

演劇部…現在部員数が危機的状況である演劇部は、少人数であるが故に演技に質を求め、完成度の高い芝居を目指し活

動している。普段は基礎的な、発声・滑舌などの強化に勤しみ、学校祭での公演・高文連大会での舞台発表に、より良い成果を残せるよう努力を重ねている。

文芸部…石狩支部大会には14名の部員で参加し、俳句部門最優秀賞1名、佳作2名、短歌部門優秀賞2名、詩部門優秀賞1名、小説部門佳作1名の成績で全道大会に駒を進めた。全道大会では、部誌部門で金賞を頂いた。有島青少年文芸賞の小説部門で、2名の部員が佳作に入選した。

将棋部…現在、1年生1名、2年生1名、3年生4名の計6名で活動している。活動日は放課後、週2回。活動内容は練習対局と将棋ソフトを用いた研究、さらに書籍による戦法や定跡、手筋などの研究をしている。今年度の春季地区大会では団体戦で3位に入賞した。

インターアクト…春に新入生7名が入部し、2年生11名、3年生16名、計34名の体制で様々な活動に取り組んだ。市内の知的障害者施設への支援活動や、中国四川省の高校生との交流、「ロータリークラブの歴史」の学習会等を通して、社会や世界の人々との「絆」を日々実感し活動に励んだ。

JRC…あしなが育英会募金、赤い羽根共同募金への協力、学校祭でのチャリティーバザー(古着の販売や切手、ハガキの回収、古着衣料のリサイクル活動を行った。高文連支部大会では点字の体験学習に参加。実際に点字で文章を読み書きした経験は、福祉について考える貴重な機会となった。

書道部…毎日新聞社主催「第32回毎日全国学生書写書道展」に出品。「優秀特選」を獲得。

合唱部…高文連への参加、NHK学校音楽コンクールへの参加、全日本合唱コンクール北海道支部大会への出場を行う。3年生の男子部員4名のレベルを、男子2名にうまく伝達したい。今年度は特に、札幌時計台でのXマスコンサートを他校とジョイントで行うなど精力的に活動しました。

国際交流部…今年度「英語研究部」より改称され、顧問も2人体制となり活動の幅が大きく広がった。5月に政府交流事業で中国四川省から派遣された高校生約50名と1日交流、12月にはJICA(日本国際協力事業団)でアジア諸国から派遣された方々と交流するなど、意欲的に活動できた1年であった。

退職を迎えて

北海の一つの伏流
水は反骨・反権力
精神

岩間 忠廣

学校史でいうと、今年度の卒業生で、北海英語学校・ラズ旧制北海中学校と、北海高校の歴史が等しくなった。来年度の新生は、高校になってからの方が長くなる教育に参画していくことになる。

北海に勤めることになったのは、1970(昭和45)年である。70年安保の年であり、北海高校にもいくらかであったが、学生運動の余波があった時でもあった。3年生は、高23期である。また、この年度の卒業式の日起こった事件で、硬式野球部は選抜大会が決まっていたが、青森から引き返すということがあった。この時の職員会議は、主戦論があったりして、夜8時ころまで何度か論議をした。

北海高校は、共学に踏み切ったことでは急旋回した

と思うが、このことを除くと、大型タンカーのようなもので、そう簡単には変わらない学校だったと思う。けれどもこの「涙のUターン」が、特に運動部の体質を改善しなければならぬという契機になったことだけはまちがいない。そして、諸先生たちの長く地道な努力の積み重ねがはじまった。小生は、1992年から

の水泳同好会を別にする、山岳部しか運動部の顧問はしていないが。

西欧史が専攻なこともあって、世界史は当然であるが、政治・経済の二つしか教えることがなかった。カリキュラムのこともあって、卒業担任は6回しかない。男子校の時代は、1年の担任でも、明日こいつをどう怒鳴りつけてやるかを考えて生活していた。2年の夏休みには、こいつら早く卒業しないかと思ったことも二度や三度はある。もつとも、共学になってから1年間ほとんど怒鳴らないで済んだクラスも持てたが。

北海の少し粗野・乱暴で、反骨精神に満ちている気風・気質は、自分の性分にあっていた。かくして、39年。少子時代となり、これから

いろいろな困難もかかえこむであろう。生徒諸君からいえば、がんばるところはがんばり、楽しい高校生活を送り、北海の卒業生であることに胸を張っていえるような学校であってほしいと考えている。

在学、勤続、私の歩
んだ四十一年

由岡 芳隆

北海在学中の3年間はさておき、私が北海という大河に教員として船出したのは、札幌オリンピックが開催された前年、1971(昭和46)年のことであつた。専門の英語よりもアイスホッケー部の運営で頭が一杯だった。部員7名からのスタートだった。両

下股静脈瘤で引退するまでの11年間、思い出は数多い。中でも1978(昭和53)年と1981(昭和56)年の全国大会においてベスト8進出を果たしたことは記憶に新しい。

1980年代から90年代にかけて、コンピュータ時代の幕開けであつた。私は、この

機器の虜になった。いつの間にか全校生徒の成績処理を担当していた。情報処理委員会発足後、視力の低下からその任を退いたが、その先陣を切らせていただいたことに感慨がある。

1999(平成11)年、北海は男女共学という大革命を行った。入学した生徒の学力は総じて高く、臨む授業にも確かな手応えがあつた。

2004(平成16)年9月、カナダLCI高校との国際交流に参加することとなり、生徒30名の引率として、この地を踏んだことは、私の人性観を大きく変える転機となった。同年春、忘れることのできない新入生との出会いがあつた。入学から卒業まで、一貫して英語の授業を共にすることができた。奉職38年、毎日の授業に、英語教師として、これほど生き甲斐を感じたことはかつて無かつた。

今年度、9月から11月末までの3ヶ月間LCI高校で交換教員として日本語教育を担当する好機に恵まれ、明るく優秀なLCI生徒との心の触合いは勿論、数多くのカナダの人々と旧交を温め、新たな友情を育むことが出来たことは、私の教員生活の花道と認識している。

北海は私の人生
校友は私の宝

本藤 美佐江

お陰様で無事44年の勤務を終え、3月で定年退職を迎える事となりました。

校友の皆様には、今までの御交誼、心から感謝致します。当時は男子校で、女子は養護教諭を含め7名、女子トイレは無く生徒の奥、事務室は今の講師室、そこに8人の机を並べ背にロッカー、火鉢に鉄瓶。今、想像できますか？あの小さな窓口で定期の証明を発行したり授業料を現金で扱ったりしていました。懐かしう方も多いと思います。併置中学校もありました。ワンパクで元気の良い可愛い生徒達でした。

奨学金や就職等の仕事、また職場結婚でしたので、主人が担任した生徒やスキー部員との出会いはとても楽しかったです。卒業後、元気な顔を見せてくれた時は嬉しく、幸せな気分になりました。

更に校友会を通して卒業生との拘わりは、益々深いものになりました。そういう機会

を与えてくれ、生徒と同じように、また娘のように接し、物の考え方、人生どうあるべきかを指導し育ててくれた故林和吉先生、先生なくして今の私はないと深く感謝しております。

初めて支部に伺ったのは、釧路です。いつも電話で話をしていた桂さんの「一度ぜひ来て下さい」とのお誘いに初対面さを感じませんでした。釧根支部長の故寺井さんには、学校にバスを戴くなど、公私共々お世話になりました。旭川支部にもお邪魔しました。西日本支部長の佐々木さん始め道南支部長の滝本さんなど本当に多くの支部の方々にお世話になりました。ありがとうございました。

また、事務長として最後の年に「夏の甲子園大会出場」「サッカー全国選手権大会出場」と言う快挙、生徒の頑張りが、私の退職に華を添えてくれたと心から感謝しております。

44年間にわたる北海での生活で、私は校友の皆様に劣らぬ北海生になったと自負しております。校友の皆様どうぞ健康に留意され「これからの北海」「これからの校友会」をよろしく願います。

サヨナラは言いません。
「これからもよろしく」で

す。またいつか、お元気で会いましょう。
ありがとうございました。

《北海文庫》の誕生

本校は、123年の歴史のなかで多彩な人材を輩出し、現在に至っています。近年では、2005年にギャラリー大通美術館で「創立120周年記念展」を開催しました。昨年春には、図書館に卒業生の図書資料を集めた《北海文庫―愛称ほしぼし君》も誕生しました。文庫は元来「ふみくら」、書物のくらという意味で使われたことばで、図書館の先駆的な存在です。

その内容は文学を中心に、哲学、歴史、社会科学、自然科学、芸術、スポーツと多岐にわたります。『密猟者』で芥川賞を受賞した寒川光太郎と、『塵の中』で直木賞を受賞した和田芳恵の直筆原稿や画集や写真などの展示もおこなっています。

《北海文庫》は在校生に、「北海の歴史と卒業生の活躍



を興味深く眺める図書」としてだけでなく、自ら学ぶ資料として活用されています。

図書館では資料の充実をはかるとともに、校友の皆さんに、北海に関する資料の提供をお願いしたいと考えています。古い出版物は貴重な資料となります。情報をお持ちの方の連絡をお待ちしています。

剣道部100周年によせて

昨年11月1日、北海剣道部創部100周年の記念式典が行われました。はじめに午後1時より紅白試合が北海高校体育館にて行われました。参加者は卒業生52名と現役生12名の計64名で、年齢層は16歳から64歳と50歳も離れており、まさに伝統をひしひしと感じさせるものでした。夜はホテルにて祝賀会が行われました。歴代の先輩をはじめ、父母後援会、現役父母、現役部員の参加だけでなく、北海道剣道連盟、札幌剣道連盟、札幌学校剣道連盟の皆様にもご出席頂き、総勢約200名にものぼる感動的な大祝賀会でした。参加した方々には皆、北海剣道部の歴史を誇りに感じたことと思います。

100周年の記念品としては、約250ページにわたる膨大な量の記念誌、正心会(北

海剣道部OB・OG会の名称)会長沼口幸雄先輩直筆(「偉大なるものは嵐の中に育つ」)による面手ぬぐいがつくられ、また、1枚板でできた長さ2メートル幅50センチメートルの剣道場看板、大型のプラズマTVなどが剣道部に寄贈されました。さらに、北海学園本部に道場の床修理をお願いし、全国的にみてもあまりない理想的な道場にして頂きました。私はこの100周年行事で、伝統の偉



大さだけでなく、諸先輩方の北海剣道部に対する愛を強く感じました。

最後になりましたが、100周年行事の企画運営に並々ならぬご尽力頂いた実行委員の諸先輩に敬意を表すとともに、物心両面にわたる多大なるご厚情を頂きました皆様に深く感謝申し上げます。この素晴らしい伝統が200年、300年と続き、北海剣道部が益々発展していくことを切にお祈り申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

ホッケー部創部80周年

1927年の創部から80年余り。今日の北海ホッケー部があるのは、過去幾多の試練に耐えながらその伝統を受け継いできた、諸先輩方のお陰であります。

全国優勝を果たす等輝かしい戦績、多数のオリンピック選手の輩出、まさに全国に「北海高校」の名を轟かせてきました。

伝統あるホッケー部が今後ますます発展し、素晴らしい功績を残すとともに、個々の選手が人間的にも大きく成長する。その一つひとつの積み重ねが、財産となり、新たな伝統を重ねていく。

今後も北海高校ホッケー部が続いていくために：

稲村先生 ご逝去

私が胖先生に初めてお会いしたのは、昭和36年の5月から6月の事でした。この年、先輩の田下先生が急に奈良の教育大学に行くことになり、その後釜として丁度体を壊してそれまで勤めていた会社を辞めて札幌に帰ってきていた胖先生が招かれたということでした。その当時の数学科は稲村(胖先生の父上)先生以下7名で構成され、その中の一人が、しかも学期の途中で抜けるということになると、その後釜を探すのは大変な事であり、大森校長先生も頭を痛めたことであつたと思います。そのときに胖先生がいらしたという事は、北海道高校に限り誠に幸運であつたといえるでしょう。胖先生は旧制の北海中学に入学し新制の北海道高校を卒業後北海道大学に進学、さらに親類の稼業を継ぐため北海道大学経済学部にて再入学、卒業後一般のサラリーマンとして、親類の会社に入社したと聞いております。

さて、胖先生のお父上は、謹厳実直を絵にかいたようなお人柄で常に物静かで笑っておられる先生でした。それに引き換えバンさんは、いつも賑やかで私たちの中心になり

若い独身者のリーダー的な存在でありました。私たち若者にとりバンさんは、あこがれであり、バンさんのすることなすことの全て(良いことも悪いことも)が私たちの手本になったものです。ですからバンさんの結婚式は私たち独身会に対する裏切り行為で、大いに盛り上がりました。その後次から次へと結婚し独身会は解散してしまいました。

その後バンさんは数学から本職の理科に移り、学校運営においても各職務分掌を経験され学校の中心として将来を嘱望される先生になられました。しかし、また体を壊され満足に行く活動もできず誠に残念なことでありました。生徒諸君に対する態度も先生というよりも先輩として接し生徒から慕われておりました。このようであつた胖先生のご冥福を心よりお祈り下します。(元北海道高校教諭 五十嵐宣善)

追悼 林和吉先生

林先生が亡くなった。あの笑顔に、もう会えない。10年以上も前のこと、お宅の2階は、貸間になっていて何人かお世話になった。その中にA君がいた。彼は道南の高校から、学園大学の夜間部への入学が決まり、部活も希望していた。縁があつて彼の住まいを探ることになった。ここに住むためには、家賃よりも人柄のほうが重い。先生ご夫妻、彼と部の監督、それに私、計5人の面談が始まった。紹介者としては多少の緊張を覚える。先生が聞く、「大学進学」の目的は、「彼が答える。」「また先生「若いうちは何事も経験だ、学生生活を少しみなさい」さらに先生の話は延々と続いた。先生の話は長かった。そして彼は晴れて入居を許された。続いて奥さんが、身のまわりの心配を始める。ストープは部屋についているけれど、冷蔵庫、洗濯機、ガス台は、などなど。このやり取りのおかげで、新しくはないが「暖かい品々」が揃った。お宅からの帰り道、どんな会話があつたかは、記憶にないものの3人3様感謝した。彼は、充実した学生生活を送り、難関を突破し市内の私立大学に勤めた。葬儀の朝、エレベーターから降りるなり、顔を被い、泣き崩れる大柄の弔問者がいた、彼である。式中この男が、間違いなく一番泣いた。

先生は、北海中学を昭和23年に卒業し、大学受験につまずき、失意の中、一時北村へ帰郷した。請われて、中学の代用教員として数年間故郷の教員生活を送った。当時の教え子、秋田谷英次先生(元北海道大学低温科学研究所長)は弔事の中で「中学を卒業し、実家の農業を手伝っていたとき、大学生となつた先生がバスから降り立つ姿をみました。この姿が私に、将来への道筋を示してくれました。私も先生のようにと一念発起し、研究者としての人生を歩むきっかけとなりました」と述べた。

先生の葬儀は、誰もが、別れを悼みそして感謝した。北海林塾旗に包まれた亡骸を送ったのは先生曰く「俺の子」達による校歌「天地を包む」の大合唱だった。

それは長く続かず嗚咽に変わり、「ありがとう先生」に変わっていった。先生は、大人としての気構えを、「義務と責任」だと教えた。

道標 林和吉「は去つてもその教えは、そこに集いしわれ等が長く語り継がねばならない。(25期 木村勝照)

木村先生を 偲んで

太平洋戦争の後遺症は教壇にも影響し、北海でも職員室が若い教員たちの活気にあふれるようになったのは、昭和30年代前半であつた。

偶、昭和5年の午年生れが7名も揃い、校内外の教育活動に若さを発揮したが、平成20年12月19日に逝去された木村榮三朗先生もその一人であつた。

体育の教師であつた先生は、部活動ではバスケットボール部を指導し、高体連大会の当番校などでは大奮闘したものであつた。

昭和34年に体育館が新築されるまで、旧体育館の梁の存在は、バスケットボール部やバドミントン部などの練習にとつては厄介な代物であつた。新体育館が完成した時の先生の笑顔が忘れられない。

海に近く育つた先生なので、当時併置されていた中学校の海浜学校では、まさに「水を得た魚」で、毎年生徒たちに楽しい夏を経験させてくれた。何かとエピソードの多い先生であつた。それは、先生の「新しいもの」「珍しいもの」に、興味を持って挑戦する姿勢の故であつたに違いない。

教師として、また先輩として、レスリング部や相撲部を熱心に指導し、秀れた人材を育てた功績は大きい。

「鯨」というニックネームもあつた。授業に、体育館に、グラウンドに、あの「吠える」声はもう聞かれない。

心からご冥福をお祈りする。(元北海道高校教諭 松竹谷 智)

卒業生の動向

恩師飛澤栄三先生を偲ぶ会

高13期 高屋敷日出夫

の出席をいただき20年という
永きに渡り先生を偲び、昔を
語り合い元気の源になつてい

ました。そしてご家族と内外
から見た先生像を知る事が出
来ました。私は先生から野球
道を学びお陰様で人生の道を
間違わずに送って来れたこと
に感謝しています。平成20年
11月15日ホテルノースシティ
で開催し節目の今回で幕を閉
じる事になりました。

若松先輩

野球殿堂入り

おめでとぅございます

高校18期の若松勉氏が、北
海道出身者では初の、野球殿
堂入りを決めました。

れました。また、監督として
も01年ヤクルトを日本一に導
きました。

若松氏は、71年にドラフト
3位でヤクルト入り、通算打
率日本人最高の・319を残
し「小さな大打者」と讃えら

※なお、学校等関係者の間で
祝賀会の計画が進められてい
ます。(7月25日、詳細未定)

南部忠平先輩

金メダル号外 母校へ



当時の快挙を伝える号外
は、15年前、札幌学院大学
教授・笹岡征雄氏が北海高
校の先輩・今岡氏から譲り
受けたもの。自ら発刊して
いる研究誌などで紹介して
きたが、2009年3月に
定年を迎えるのを機に、「偉
業を未永く後輩に伝えたい
」と、母校・北海高校に
寄贈した。

平成元年に高11期の大岸先
輩が発起人として、同期の篠
田・三澤、高12期の荻野・國
本・茅野各先輩と私が賛同し
て、奥様が元氣な時に先生へ
の御礼と当時の仲間が一同に
会して先生を偲びながら昔を
語る会を7月22日に平安閣で
開催。当日は奥様と長男の忠
夫様を含め12名で久しぶりの
再会を楽しむ。そして、大岸
先輩の計らいで肖像画を奥様
に贈呈させていただきました。
それから会も今年で20回を迎
え、この間奥様・安保・松岡
・藤田・深瀬・守田の諸氏が
お亡くなりになりました。ご
冥福をお祈り申し上げます。
これまでに、次女紀久子様、
次男の茂夫様はじめ河井・田
下・松竹谷他各先生、二高O
B白野様、元苦東辻先生、他
校OB、先輩OB谷口・浅田
・小林・田原・工藤・北林・
柴田・長谷川・中村・星・米
原・塩島・鈴木・武田・牧野
・森・牛戸・野間・朝日田他

第61期生を

代表して

蜂谷明日香



前生徒会長をしておりま
した蜂谷明日香です。第61
期卒業生を代表致しまして、
北海校校友会に入会するに
あたりご挨拶を申し上げます。

3年前の入学式の日、
私は担任の先生から、制服
のブレザーのボタンには
「SINCE1885」と
刻まれていることを教わり、
北海は歴史のある学校だとい
うことを知りました。そ
の長い歴史の中で先輩方が
築き上げてこられた北海で
学んだたくさんことは、

今後生きていく上での大き
な財産となったと思いまし
た。

北海に3年間通い、北海
には他校に負けない良さが
あることに気が付きました。
その1つは、OB・OGの
先輩方の母校を愛する気持
ちの強さです。卒業して何
年経ってもこの気持ちが強
いままでいられることはと
てもすばらしいことであり、
誇れることだと思えます。
そんな先輩方とともに活動
ができるということは、大
変うれしいことです。私達
もそんな先輩方のように、
卒業した後もうつまでも母
校を愛し続ける気持ちを忘
れないでいたいと思います。
北海のOB・OGである
ことに誇りを持ち、3年間
で学んだことを大切に、
私達第61期卒業生はそれぞ
れ自分の道を歩んでいきま
す。どうぞこれからもよろ
しくお願い致します。

支部・同期会の動き

追うや聖戦中原の夢 東京支部

1908(明治41)年東京牛込にて在京卒業生らが校長浅羽靖を囲む懇親会を開催しこれを源泉とし、現校友会の発展に繋がりました。



母校の壮行歌に「今朔北の覇業はなりて 追うや聖戦中原の夢」とありますが、中原(東京)の卒業生らの赤心は今も変わらずに篤かったのです。平成20年度北海校友会東京支部定例総会は、各時代を超越した篤い場となり、不況下にも拘らず会場は、お互いの顔を、篤心の笑顔と少しだけ乱暴な挨拶で赤い心の猛者連で溢れましたが、校友会源泉の地であり、追い続けた中原の北海健児らにとつて、菊地前支部長、橋本元支部長と2年続けたの悲報に接し、お二人の志尚を継承し、支部の一層の充実と発展を目指す事が、母校と校友会への一助になるとの認識で全員が一致しました。

旧懐の友との時は走馬の様に過ぎ、来年の再会を約する時が迫り、母校の緑なす裏の藪で声を枯れんと歌い継いだ応援歌と、故橋本元支部長を壮行歌で追悼し、幾多の歓喜と悲哀のたびに歌った、北海高等学校校歌を、「拳を右手に高く」の合図と共に斉唱し、平成20年度の東京支部総会の幕を降ろしました。最後に、若い卒業生達の参加が増え、青年部創設が焦眉の急となり

嬉しい悲鳴となりそうです。(東京支部長 長谷地孝一)

天地を包む雪の色 道南支部

函館湯の川温泉旅館の会場に「天地を包む雪の色」と校歌が流れるなか平成20年度支部総会懇親会が11月15日に開催され、広田泰賢顧問(中34)から岡本侑弓さん(高54共学一期)まで18名の出席となりました。

学校から事務長本藤美佐江さんが出席され近年難しい学校運営のなか文武両道で活躍している在校生のことなど詳しく近況報告があり母校の様子を力強く聞くことができました。札幌在住の会員北川勇



さん(高14)箱崎徹さん(副会長高20)の出席もあり新会員石山昇さん(高46)の初参加もあつて幅広い集りとなり改めて懐き青春時代に思いをはせながら一次会は田中忠男幹事長(高14)遠藤登志靖さん(高32)のリードよろしく全員で校歌斉唱その後別室で二次会と深夜まで盛り上りました。

北海のOB同志はいつまでも在校生時代の話しを楽しく話し合うのは他校ではみられない独特なものではないかとある先輩が言われていたが本当にその通りと思います。

新たに校友になる皆さん各支部で参加を待っています。(道南支部長 滝本 洋一(高4期))

西日本支部の動きについて

先の校友会便りでご紹介した当支部数の会(70歳以上)発足以来第2回例会合を6月7日に7名の出席者で関西文化サロンにて開催各位再会と健康を喜び合い佐々木支部長より母校の近況、入進学状況等話に花が咲いた一刻を過ごしたものである。7月に入り母校野球部の善戦が耳に入り出し19日に南北海道代表として甲子園出場を射止めた。9年目34回出場今年こそは、校



歌を耳にとの期待で8月6日第1回戦応援に駆けつけた。相手東邦高校と一喜一憂最終回まで点の取り合いしかし惜しいかな安打数やバント失敗等劣り軍門に下った。しかし北海高校はこの敗戦を生かし捲土重来又の出場を地元西日本支部として期待するものである。その為11月10日母校の校長、北明先生の公務来阪を知り佐々木支部長より寸暇を作って戴く様事務局に懇願その日時に支部会合を開催したものである。その席上校長よりの現況報告質疑の中で懐しさのあまり涙腺のゆるむ事も数多く有意義な一刻を過ごさせて頂いた事校長先生始め事務局の皆様方に厚く御礼申し上げます。最後になりましたが今回の校友だより投稿依頼の件佐々木支部長一身上の都合にて諸事多端私の代筆となりました事お詫び申し上げます。(西日本支部長代行 新出 忠治(旧中43期))

和やかな雰囲気 釧根支部

平成20年2月15日(日)釧根支部の総会と新年会が開催されました。黙祷・校歌に続き、学校を代表して甲子園大会・サッカーお正月大会へのご協力のお礼と進学状況や受験生が増えたことを報告いたしました。

釧根支部には、教育大に通う女子卒業生や若い会員も参加し、毎年和やかな雰囲気で開催されております。

また、私の退職祝いで花束を戴き感激いたしました。ありがとうございました。

(本藤美佐江)



校長をお迎え 総会開催

十勝・帯広支部

平成20年4月12日(土)帯広市内のレストラン ふじもりにおいて支部総会を、北明邦雄校長をお迎えし開催いたしました。

校歌斉唱に引き続き役員改選(全員留任)、決算、予算、全会一致で承認され早々に、懇親会に入り羽賀会計幹事の司会で始まり、会長代理として平田幹事長が支部の近況、活動状況の報告がなされ、北明校長より、男女共学の経緯近況、変革、活動報告についてお話を頂き大変革に驚きは隠せなかったようであり、興味は野球部の甲子園大会出場、サッカー部の活躍、運動部の活動結果であり、同窓生の一致するところですが、校長先生は文化にもふれて例え話を交えたお話でしたが、なんといつも運動部が新聞の一面を飾り、北海の存在を知らしめてほしいのが共通の願いだと思えます。しかしながら文化、芸術の部門での活躍も見逃せないと思います。美術、書道等活躍が新聞で時々みますので、更に文武両道を強力に精神を継承していただきたいとも思えます。比較参加するメンバーをみると運動部



出身が多いようではありますがこれも置かれた環境立場、繋がり、強さは何物にも変えがたいものであるのが体育系の強みかなと思うのは私だけかな、やむを得ないと思いたすのが現状と、教育の実態と今日の北海と、過去の流れ北海高校の置かれている現実をありのままに話され全員真剣に聞き入り懐かしさと相まって大変感慨深いものを感じさせられました。

旧中 41期阿部 守先輩の乾杯の挨拶で懇親会に入り、自己紹介が進むにつれ楽しい雰囲気と同窓生であるが故に許されるほどの会話、情報交換が進み誠に有意義なひとときであり、早々に次回の企画要求があり事務局として嬉しい言葉でした。本年卒業される生徒は、地元に限らず、新しいところで参加することに絆の強さを感じられると思

ます。積極的な参加を希望いたします。帯広、十勝にこられる際は是非ご連絡をお願いいたします。

北海健児その意気高く永きに亘る伝統を継承しつつさらに会員相互の親睦を深める催しを企画したいと思えます。

是非でも各支部の活動に参加され、ご協力のほどをお願いいたします。(十勝・帯広支部幹事長 平田 利器 (高19期))

戦前戦後の橋渡し 高校2期

われわれ高校2期卒生は、昭和19年旧北海中学に入学、戦中は授農等勤労奉仕を経験し、終戦後、学制改革で新制高校に編入され、荒廃した学園に自治会の発足等学園民主化の基礎造りに情熱を燃やしました。

関東地区に在住している同期約20名は、春の昼食会と秋の一泊旅行を恒例としており、今回は恒例の昼食会を5月23日、東京代々木のオリンピックセンターで開催しました。最近では最多の14名が参集しました。

以前は戦中の援農作業や戦後の学園の民主化活動が話題の中心でしたが、本年同期の大部分が喜寿を迎えたことを

反映し、最近では、病気の経験話等健康維持の情報交換に集中しております。

「校友だより」にも時々報告されてきた、北海の応援歌詞を正しく検証に努力されて来た浜口武人君や、日本の陽明学研究の第一人者である松川健二君、更に京都から参加している元広島大学教授で現在中国四川省で農業指導に努めている山谷洋二君等多士済々の集りです。

尚、高校2期の札幌会は「ダックス会」と称し、年5回の定例会と毎月のカラオケ会等で益々の気炎をあげております。2010年は卒業60周年全国大会を札幌で開催すべく検討中です。(幹事、中村次雄、記)



平成19年度 北海校校友会決算書
(平成20年3月25日現在)

一 般 会 計

《収入の部》				
項 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
前年度繰越金	1,704,373	1,704,373	0	
在校学生会費	3,600,000	3,820,800	220,800	
終身会費・年会費	1,050,000	980,003	▲69,997	
雑 収 入	5,627	8,009	2,382	利息 プラス
合 計	6,360,000	6,513,185	153,185	
《支出の部》				
項 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
新校友歓迎費	450,000	418,005	▲31,995	校歌入りオルゴール
印刷費	500,000	669,910	169,910	校歌入り 封筒
同期会支部総会補助費	80,000	30,000	▲50,000	支店 同期会
会議費	400,000	659,846	259,846	幹事会 支部総会
事務運営費	1,000,000	533,066	▲466,934	宛名剝離紙
通信費	1,300,000	1,112,175	▲187,825	宛名剝離紙
慶弔費	30,000	55,000	25,000	弔電 供花
旅費交通費	420,000	430,800	10,800	弔電 供花
生徒会機関誌費	150,000	150,000	0	機関誌「北海」
積立基金	1,000,000	1,000,000	0	
予備費	10,000	0	▲10,000	
振込手数料	20,000	21,400	1,400	教育会費 年会費
次年度繰越金	1,000,000	1,432,983	432,983	
合 計	6,360,000	6,513,185	153,185	

☆次期繰越金 北洋銀行豊平支店
普通預金 495478 1,432,983

平成19年度 特別会計決算報告書
(平成20年3月25日現在)

校友の集い決算書

《収入の部》		
項 目	金 額	摘 要
会 費	4,728,000	幹事取扱 (754枚) @6,000×754 当日取扱 (34枚) @6,000×34
ご 祝 儀	80,000	招待者
広 告 料	2,580,000	
	7,388,000	
《支出の部》		
項 目	金 額	摘 要
会 場 費	2,990,860	プリンスホテル
アトラクション	519,850	手品、平岸天神太鼓、応援団
印刷費	851,970	会券、チラシ、ポスター、他
記念品費	1,092,053	夫婦箸、ストラップ
雑 費	922,051	ビデオ、通信費、会議費他
合 計	6,376,784	

7,388,000 - 6,376,784 = 1,011,216

積 立 基 金

《収入の部》		《支出の部》	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	13,755,402	名簿代金	2,100,000
一般会計より	1,000,000	次年度繰越金	13,685,499
総 会 残	1,011,216	合 計	15,785,499
利 息	18,881		
合 計	15,785,499		

☆北洋銀行豊平支店
(普通預金) 0506556 6,136,928
(定期預金) 0368660 (0044) 1,027,426
(0045) 2,004,004
(0046) 3,008,167
(0047) 1,508,974
13,685,499

奨 学 金 維 持 会 費

《収入の部》		《支出の部》	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	2,458,138	安田信託銀行へ	2,000,000
維持会費	1,024,870	振込手数料	4,630
利 息	4,023	次年度繰越金	1,482,400
合 計	3,487,031	合 計	3,487,030

☆北洋銀行豊平支店
(普通預金) 0538476

平成20年度 北海校校友会予算書

《収入の部》		
項 目	予 算	摘 要
前年度繰越金	1,432,983	
在校学生会費	3,450,000	3000×1150
終身会費・年会費	800,000	10000×60 5000×40
雑 収 入	2,017	
合 計	5,685,000	

《支出の部》		
項 目	予 算	摘 要
新校友歓迎費	450,000	校歌入りオルゴール
印刷費	500,000	封筒 校友便り

同期会支部総会補助費	80,000	同期会 支部総会
会 議 費	500,000	幹事会 支部長会
事務運営費	600,000	宛名剝離紙 事務用品
通信費	1,200,000	往復はがき 郵送料
慶弔費	30,000	弔電 供花 香典
旅費交通費	430,000	支部長会 支部総会 チケット代
生徒会機関誌費	150,000	機関誌「北海」補助
積立基金	700,000	
予備費	20,000	
振込手数料	25,000	終身会費・年会費加入者負担分 他
次年度繰越金	1,000,000	
合 計	5,685,000	

平成18年度 財産目録

流動資産(金銭信託受益権) 2,169,249
固定資産(貸付信託受益証券) 20,000,000
合 計 22,169,249

現金出納簿および預金通帳、定期預金証書並び
に関係書類と照合の結果正当に経理されているこ
とを確認致しました。

平成20年3月25日

北海校校友会会長 倭 昭 三 殿

会計監査員 橋 本 昌 浩 ㊞

会計監査員 早 坂 一 雄 ㊞

年が明けた1月20日、世界の期待を集めてバラク・オバマ氏が米大統領に就任した。黒人指導者キング牧師の有名な演説「わたしは夢がある」で米社会の共感を呼んでから46年経つてのことである。史上初の黒人大統領の誕生は米社会の「変革」を象徴しているのだらうか。真の評価はまだこれからだが、かつて黒人の社会的地位をめぐり混乱した時代には遠い夢だったことが、新たな時代を迎えている。さて、本校の1年を振り返ると、硬式野球部、サッカー部、アイスホッケー部を初め各運動部・文化部が素晴らしいた実績を残した1年だった。また、進学にもこれまで以上

編集後記

全国公募で決定する2008年の漢字には「変」が選ばれた。「変」には、普通ではない「に對して、良くも悪くも変わる」という意味がある。実際、世の中では世界的金融恐慌が発生し、その影響で企業では派遣切りや新卒者の内定取消しが相次いでいる。これらのことは「教育」に対しても直接的な影響を与えていることは言うまでもない。

「変」が選ばれた理由には政治・経済以外にも多くの理由が挙げられていたが、そのほとんどが悪いイメージであった。年が明けた1月20日、世界の期待を集めてバラク・オバマ氏が米大統領に就任した。黒人指導者キング牧師の有名な演説「わたしは夢がある」で米社会の共感を呼んでから46年経つてのことである。史上初の黒人大統領の誕生は米社会の「変革」を象徴しているのだらうか。真の評価はまだこれからだが、かつて黒人の社会的地位をめぐり混乱した時代には遠い夢だったことが、新たな時代を迎えている。さて、本校の1年を振り返ると、硬式野球部、サッカー部、アイスホッケー部を初め各運動部・文化部が素晴らしいた実績を残した1年だった。また、進学にもこれまで以上

《高校第61期》
校友会クラス幹事

平成20年

1組 健矢 宮腰 恵生
2組 圭輔 池田 翔奈
3組 聡人 太田 なつ香
4組 直人 土谷 めぐみ
5組 秋斗 荃津 弥加
6組 敏貴 神宮 由理
7組 郁哉 ◎新谷 果林
8組 敦史 加藤 みな美
9組 拓弥 三上 美香
10組 翔太 細川 裕未
11組 渡辺 秀夫 ◎印代表幹事
12組 渡辺 秀夫 ◎印代表幹事